

イスクイル4

赤字はよく分かんない部分

音韻

母音

	前		中央	後	
	非円唇	円唇	円唇	非円唇	円唇
狭	i		ü		u
半狭～半広	e	ö		ë	o
広	ä			a	

- e、ö、o は二重母音の始まりでは必ず半狭
- ë は曖昧母音の場合もある
- u は [ʊ] か [u] 。二重母音の始まりでは必ず [u]
- ü は [ʏ] か [y]。y と w の後では必ず [ʏ]
- 二重母音は ai、ei、ëi、oi、ui、au、eu、ëu、ou、iu。尾子音が -l、-r、-ř の場合や詩歌の中では別々の音節として読まれることがある。間に声門閉鎖を挟んではいけない。

子音

	両唇	唇歯	両唇 軟口蓋	舌尖 歯	歯間	舌尖 歯茎	歯茎 反り舌	歯茎 硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
破裂	p b			t d						k g		'
破擦						c ʒ		č j				
摩擦		f v			ʈ ɖ	s z		š ž	ç	x		h
側面 摩擦				ɭ								
鼻	m			n						ɳ		
叩き/ 震え							r					

側面 接近				l								
接近			w						y		ř	

- ph、th、kh、ch、čh は、頭子音または語末では帯気音。母音間では 破裂・破擦音 + h。
- hl、hr、hm、hn はそのまま読まれるか、それぞれ [ʰ], [ʰr], [ʰm], [ʰn] として読まれる。
- x は口蓋垂音 [χ] でもよい。
- r はたたき音だが、二重子音化したとき震え音になる。語中で直後に子音が後続する場合は [r̥] (ただし舌尖音)
- ř は [r̥]。二重子音化したとき [R] になることがある。
- 声門閉鎖の後に子音が続く場合、間に [i] か [u] が挿入されることがある。
- w、y、' 以外の子音は母音間で二重子音化できる。w、y、破裂音以外の子音は語頭・語末で二重子音化できる。

強勢の表示

- 後ろから二番目の音節の強勢は無標。それ以外の位置の強勢はアキュートで示される。トレマ付きの母音の場合はサーカムフレックスに変えることで示される。
- 子音に後続する母音連続の先頭の i や u に強勢がない場合、グレイヴで示される。このとき、i や u は y や w との区別のため長母音化する。

高低アクセント

- 強勢のない音節は中くらいのピッチ
- 単語が強勢のある音節から始まる場合、「上昇」「高」「上昇-下降」「下降-上昇」のいずれかのピッチを選択できる。例えば、諾否疑問文の場合、文の最後の単語のピッチとして「上昇」を選択してもよく、非叙述的な節では、節の始まりと終わりを「低」トーンに変えてもよい。基本的に、話者の母語と同じようなピッチで話してよい。
- 強勢のある音節で選択されたピッチは、変化させずに単語の終わりまで継続させる。つまり、中ピッチのみの単語は存在しない。
- 単語が強勢のある音節から始まる場合や単音節語の場合、かつ breath group (一呼吸で発される言葉のまとまり)の始まりでない場合、直前の単語の終わりのトーンとは異なるトーンで開始させることで語境界を示す。例えば、直前の単語の終わりが「下降」「上昇-下降」「低」の場合、後の単語は「下降」「下降-上昇」「高」で始まる。直前の単語の終わりが「高」「上昇」「下降-上昇」の場合、後の単語は「上昇」「上昇-下降」「低」で始まる
- 歌唱などでピッチアクセントが使えない場合、「V」という形態の parsing adjunct が単語の前に置かれることがある
 - 'a': 後続の単語は単音節
 - 'e': 後続の単語は最終音節に強勢を持つ
 - 'o': 後続の単語は最後から二番目の音節に強勢を持つ
 - 'u': 後続の単語は最後から三番目の音節に強勢を持つ

Formative

- 動詞や名詞に相当

スロット I : Cc

- 無標では声門閉鎖(綴りには現れない)。この場合、Formativeはconcatenateされておらず、スロットIV・VIは省略されていない。
- w-** または **y-** の場合、スロットIV・VIが省略されており、スロットII がIV・VIの情報を表示している。

スロット II : Vv

- Stem vowel接辞 **-a-** (Stem 1), **-e-** (Stem 2), **-u-** (Stem 3), **-o-** (Stem 0) によって語根の意味を4通りに変える。**-o-** は無標であり、Stem 1~3 の意味が混ざったような意味を表す。
- Version: telicityを表す
 - Processual (PRC): atelic。ゴールがない。無標。
 - Completive (CPT): telic。ゴールがある。Stem vowelを変形させることで表す。
 - a- → -ä-**
 - e- → -i-**
 - u- → -ü-**
 - o- → -ö-**
- IV・VIが省略されている場合、IVの情報がSTA/BSC/EXS(接辞 **-a-** に相当)であることとVIの情報を追加で示す。VIの情報は無標ではCSL/UPX/DEL/M/NRM(接辞 **-l-** に相当)。無標を基準とし、スロットI が **w-** か **y-** か、スロットII の母音が何かに応じて情報の一部が変化する。

Stem	Version	スロットVIの情報							
		無標	PRX	G	RPV	N	A	G/RPV	PRX/ RPV
		w-	y-	w-	y-	w-	y-	w-	y-
Stem1	PRC	-a-		-ai-		-ia- (-uä-)		-ao-	
	CPT	-ä-		-au-		-ie- (-uë-)		-aö-	
stem2	PRC	-e-		-ei-		-io- (-üä-)		-eo-	
	CPT	-i-		-eu-		-iö- (-üë-)		-eö-	
Stem3	PRC	-u-		-ui-		-ua- (-iä-)		-oa-	
	CPT	-ü-		-iu-		-ue- (-ië-)		-öa-	

Stem0	PRC	-o-	-oi-	-uo- (-öä-)	-oe-
	CPT	-ö-	-ou-	-uö- (-öë-)	-öe-

スロットⅢ : Cr

- 語根

スロットⅣ : Vr

- Function: 静的か動的か
 - Stative (STA): 状態、無変化
 - Dynamic (DYN): 変化、移動、活動
- Specification: 4つのStemからさらに分割される意味的カテゴリ。具体的な意味は単語によって異なるので辞書参照。
 - Basic (BSC): 発生や存在。「Xという出来事、Xの発生」「Xが起こる」「ある量のX」「Xがある」
 - Contential (CTE): 物理的・非物理的な内容、本質、目的を持った機能、理想化・抽象化された形態。
 - Constitutive (CSV): 構成要素。
 - Objective (OBJ): ①道具 ②二者の相互作用に関わるもの(授受の主題など) ③動作の結果として生み出されるもの ④被動者または知覚の経験者など
- Context: 主観・客観
 - Existential (EXS): 客観的事実のみ
 - Functional (FNC): 主観的・文化的・社会的背景を含意
 - Representatinal (RPS): 比喩やメトニミー
 - Amalgamative (AMG): なんかとにかく主観的で壮大な感じ

Function	Specification	Context			
		EXS	FNC	RPS	AMG
STA	BSC	-a-	-ai-	-ia- (-uä-)	-ao-
	CTE	-ä-	-au-	-ie (-uë-)	-aö-
	CSV	-e-	-ei-	-io- (-üä-)	-eo-
	OBJ	-i-	-eu-	-iö- (-üë-)	-eö-
DYN	BSC	-u-	-ui-	-ua- (-iä-)	-oa-
	CTE	-ü-	-iu-	-ue- (-ië-)	-öa-
	CSV	-o-	-oi-	-uo- (-öä-)	-oe-

	OBJ	-ö-	-ou-	-uö- (-öë-)	-öe-
--	-----	-----	------	-------------	------

* STA/RPSは直前が -y- の場合に括弧内の形で出現。

DYN/RPSは直前が -w- の場合に括弧内の形で出現。

スロット V : CsVx

- 任意の接辞。接辞のCsは変化せず、Vxが30種類に変化することで細かい意味を指定する。

degree	Type1	Type2	Type
1	-a-	-ai-	-ia- (-uä-)
2	-ä-	-au-	-ie (-uë-)
3	-e-	-ei-	-io- (-üä-)
4	-i-	-eu-	-iö- (-üë-)
5	-ëi-	-ëu-	-eë-
6	-u-	-ui-	-ua- (-iä-)
7	-ü-	-iu-	-ue- (-ië-)
8	-o-	-oi-	-uo- (-öä-)
9	-ö-	-ou-	-uö- (-öë-)
0	-ae-	-ea-	-üo-

- degree0はdegreeを指定しない。degree0をとることができない接辞もある。
- degreeのGradient Type
 - Type 0: degreeが程度の大小を表さない。
 - Type A1: degree1と9がそれぞれ最大・最小のいずれかを表す。
 - Type A2: degree1と9がそれぞれ「非常に小さい」「非常に大きい」を表す
 - Type B: degree1~3、4~6、7~9の3つの下位パラメータに分かれている。
 - Type C: degree1~4と6~9の2つの下位パラメータに分かれている。5が中立。

- Type D1: degree1と9が両極端を表し、5(または4~6)が中間(Type A1と何が違うん?)
 - Type D2: degree1と9がそれぞれ「非常に小さい」「非常に大きい」を表す(Type A2と何が違うん?)
- 接辞のType
 - Type1: 環境的、付随的、一時的な意味
 - Type2: 語彙的な派生
 - Type3: 直後にある別の接辞を修飾
- 声門閉鎖の要求
 - スロットVに複数の接辞が出現している場合、スロットVとVIの境界を明確化するためスロットIIの母音に声門閉鎖を挿入する。
 - スロットVIが省略されていて、スロットVが出現している場合、スロットVの母音に声門閉鎖を挿入する
- スロットVについて
 - スロットVIにCaが現れている場合、-CsVx-になる。スロットIVとVIが省略されている場合、-VxCs-になる。
 - スロットVの意味は、スロットVIの意味よりも先に語根に付加される。
- Case-Accessor Affixes: formativeが示す動作に参加する格に相当するものを引き出す? 例えばInstrumentalだったら、「Xという行為が起こる際のInstrumentalに相当するもの」とか
- Inverse Case-Accessor Affixes: formativeが特定の格として参与する出来事? 例えばInstrumentalだったら、「XがInstrumentalとして参与する出来事」とか
- Case-Stacking Affixes: 英語の “except during an illness” のように、一つのformativeに対して格を複数併用するときに付加される接辞。

スロットVI : Ca

- 全てのカテゴリが無標の場合、接辞は -l- になる
- Affiliation: Configurationで表された集合が目的を持つかどうか。Configuration接辞の直前に付加。ASO・COA・VARは、Caの他のカテゴリが全て無標の場合は括弧内の形で出現。
 - Consolidate (CSL): -o-: 無目的。Uniplexにも使われる。
 - Associative (ASO): -l- (-nl-): 皆同じ目的・用途
 - Coalescent (COA): -r- (-rl-): 目的・用途はそれぞれ異なるが、大きな共通の目的・用途を共有している
 - Variate (VAR): -ř- (-ň-): 目的・用途がバラバラで、互いの利害が対立する
- Configuration: 数などによる語彙的な派生
 - Plexity: いくつあるか
 - Uniplex (U, UPX): 1つ
 - Duplex (D, DPX): 2つ、対
 - Multiplex (M): 3以上
 - Similarity: 集合の個体同士が同種か別種か。Uniplexでは現れない
 - Similar (S): 同種
 - Dissimilar (D): 別種
 - Fuzzy (F): 類似性が容易に判断できない。集合のメンバーがプロトタイプから逸脱している

- Separability: 個体同士が分離してるか連結してるか。Uniplexでは現れない
 - Separate (S): 分離
 - Connected (C): 連結
 - Fused (F): 融合

Plexity	Similarity	Separability		
		Separate	Connected	Fused
Uniplex	-∅-			
Duplex	-s-			
	Similar	-c-	-ks-	-ps-
	Disimilar	-t̥s-	-fs-	-š-
	Fuzzy	-č-	-kš-	-pš-
Multiplex	Similar	-t-	-k-	-p-
	Disimilar	-t̥-	-f-	-ç-
	Fuzzy	-z-	-ž-	-ž-

- Extension: 対象のどの部分を指しているか。ConfigurationとPerspectiveの間に付加。
Configurationが無標(UPX)の場合、括弧内の形で出現。
 - Delimitive (DEL): -∅-: 指示物と外界との境界や文脈などに特に強調がない。動作の場合、動作の始めから終わりまでを表す。
 - Proximal (PRX): -t- (-d-): 文脈に関連した一部分のみを指す。「あの木は(私がぶつかった部分が)硬い」「旅行中に体重が落ちた」「はしごを登る(一番上まで登ったかどうかは含意しない)」
 - Inceptive (ICP): -k- (-g-): 指示物の始まりの部分や話し手の近くの部分。「トンネル(の入り口)を見る」「歌(の始まりの何音か)を認識する」「(考え始めたばかりの)計画を練っている」
 - Attenuative (ATV): -p- (-b-): 指示物の終わりの部分。「水がない(使い切ってしまった)」「その物語の終盤が好き」「あなたの到着を待っている」
 - Gradulative (GRA): -g- (-gz-): フェードイン。「暗闇が迫ってくる」「徐々に不思議な感覚を覚える」「音楽はとても優しく始まった」
 - Depletive (DPL): -b- (-bz-): フェードアウト。「最後の水を飲む」「少ししか力が残っていない」「薄明かりに消えていく」
- Perspective: 数。Caの最後に付加。Caの他のカテゴリが全て無標の場合、Gはそのまま出現し、N・Aは括弧内の形で出現。
 - Monadic (M): -∅-: 単数、不可算
 - Agglomerative (G): -r-: 1以上
 - Nomic (N): -w- (-v-): 全数
 - Abstract (A): -y- (-j-): 抽象概念

- Essence: 事実か非事実か
 - Normal (NRM): 事実。無標。
 - Representative (RPV): 非事実、仮定、想像。Perspective接辞を変形させることで表示。
 - Caが全て無標: -l- → -tj-
 - Monadic: -∅- → -l-
 - Agglomerative: -r- → -ř-
 - Nomic: -w- → -m- (子音+[t, p, kのいずれか]に後続する場合は -h-)
 - Abstract: -y- → -n- (子音+[t, p, kのいずれか]に後続する場合は -ç-)
- Allomorphic Substitutions: 発音や聞き分けの簡便さのため、以下の子音連続は置き換えを行う。
 - pp → mp、tt → nt、kk → nk、ll → pl
 - pb → mb、kg → ng、çy → nd
 - rr → ns、rř → nš、řr → řs、řř → šš
 - [C]gm → [C]x、[C]gn → [C]ň、[C]çx → [C]xw
 - [C]bm → [C]v、[C]bn → [C]đ、fbn → (fv) → vw、tbn → (td) → dy
- Gemination: スロットVが出現している場合、スロットVとVIの境界を示すためにスロットVIの子音を重複させる。その際、最初に Allomorphic Substitutions を適用してから以下の規則に従う。
 - 1: 単子音の場合、二重子音化させる
 - 2: tj は ttj に変える(語末では実際の発音が ttj になる)
 - 3: 破裂音の後に流音または接近音が続く場合、破裂音を二重子音化させる
 - 4: 歯擦音か破擦音を含む場合、それらを二重子音化させる
 - 5: 歯擦音以外の摩擦音または鼻音から始まる場合、それらを二重子音化させ、4の規則は適用しない
 - 6: 無声破裂音の後に摩擦音が続く場合、摩擦音を二重子音化させる
 - 7: pt → bbđ、pk → bbv、kt → ggđ、kp → ggv、tk → đvv、tp → ddv
 - 8: pm → vvm、pn → vvn、km → xxm、kn → xxn、tm → đđm、tn → đđn
bm → mmw、bn → mml、gm → řřw、gn → řřl、dm → nnw、dn → nnl

スロットVII: VxCs

- 任意の接辞。接辞のCsは変化せず、Vxが30種類に変化することで細かい意味を指定する(変化の仕方はスロットVと同じ)。
- スロットVIIの意味は、スロットVIの意味を語根に付加した後に付加される。

スロットVIII: VnCn

- 動詞にのみ出現
- Vn: Valence, Phase, level, Effect のいずれかを表すパターン1とAspectを表すパターン2がある
 - Valence: monoactive (find のように一方向に動作を行う)か、co-active (meet のように動作主と対象が共に、または双方向に動作を行う)か

- Monoactive (MNO): 無標。二者が一緒に動作を行ってはいない。「子どもたちが遊ぶ(一緒に遊んではいない)」
- Parallel (PRL): 二者が一緒に同じ動作を行っている。「子どもたちが一緒に遊ぶ」
- Corollary (CRO): 二者が同じ場所で同時に別々の動作を行っている。「子どもたちが広場で遊ぶ(別々の遊びをしている)」
- Reciprocal (RCP): 相互的な動作。「ピエロと八百屋は互いを軽蔑している」。ただし「子どもたちは互いと一緒に遊んでいる」の「子どもたち」のように、相互関係の参与者が一つの名詞で表される場合はSBS接辞が必要。そうでない場合、一つの名詞は相互関係の片側と見なされる。
- Complementary (CPL): 二者が動作を片方ずつ担う。「子どもたちが遊ぶ(一人が動作の片方を行い、もう一人が残りを行う)」 「父と子がキャッチボールをする」 「ピエロが子どもたちに物語を読む」
- Duplicate (DUP): 片方がもう片方の動作を真似する。「一緒に絵を描きましょう(私が絵を描くので、同じ絵を描いてください)」
- Demonstrative (DEM): 片方がもう片方にやり方を見せる。「私たちはチェスをする(私がもう一人にチェスのやり方を見せる)」
- Contingent (CNG): 動作の複数の段階を二者が分担して行う。「子どもたちが遊ぶ(一人が遊びの一部分を行い、もう一人が次の段階の部分を行う)」
- Participative (PTI): 大規模な動作に参加する。「彼らはレースをする(レースに参加する)」
- Phase: 動作の時間的な継続パターン
 - Punctual (PUN): 瞬間的・点的な動作。
 - Iterative (ITR): 瞬間的な動作が素早く反復される。
 - Repetitive (REP): 短い期間的な動作が反復される。
 - Intermittent (ITM): ITR よりも反復の間の期間が比較的長い。
 - Recurrent (RCT): REP よりも反復の間の期間が比較的長い。
 - Frequentative (FRE): 複数回の瞬間的動作のまとまりが反復される。
 - Fragmentative (FRG): ランダムな回数の瞬間的動作のまとまりが反復される。
 - Vacillitative (VAC): ランダムな長さの期間的動作のまとまりが反復される。
 - Fluctuative (FLC): 瞬間的動作と期間的動作がランダムに混ざったまとまりが反復される
- Effect: 動作の関与者に対する利益・被害。無標では利益も被害も表さない。他に VxCs接辞や affixual adjunct、Referential などを用いても表せる。
 - Beneficail to Speaker (1:BEN): 話し手に対する利益。
 - Beneficial to Addressee (2:BEN): 聞き手に対する利益。
 - Beneficail to Third Party (3:BEN): 話し手・聞き手以外に対する利益。
 - Beneficail to Self (SLF:BEN): その Formative 自身に対する利益。
 - Unknown Benefit (UNK): 利益・被害をもたらすかどうか不明。
 - Detrimental to Self (SLF:DET): その Formative 自身に対する被害。
 - Detrimental to Third Party (3:DET): 話し手・聞き手以外に対する被害。
 - Detrimental to Addressee (2:DET): 聞き手に対する被害。
 - Detrimental to Speaker (1:DET): 話し手に対する被害。

- Level: 比較表現。相対比較のみを表し、絶対比較には接辞を使う
 - Minimal (MIN): Xは可能な限り最も～でない
 - Subequative (SBE): XはYより(以前より)～でないか、Yと(以前と)同等だ
 - Inferior (IFR): XはYのうちで(今までで)最も～でない
 - Deficient (DEF): XはYより(以前より)～でない
 - Equative (EQU): XはYと(以前と)同じくらい～だ
 - Surpassive (SUR): XはYより(以前より)～だ
 - Superlative (SPL): XはYのうちで(今までで)最も～だ
 - Superequative (SPQ): XはYより(以前より)～でないか、Yと(以前と)同等だ
 - Maximal (MAX): Xは可能な限り最も～だ

Valence		Phase		Effect		Level	
1	MNO	-a-	PCT	-ai-	1:BEN -ia- (-uä-)	MIN	-ao-
2	PAL	-ä-	ITR	-au-	2:BEN -ie (-ue-)	SBE	-aö-
3	CRO	-e-	REP	-ei-	3:BEN -io- (-üä-)	IFR	-eo-
4	RCP	-i-	ITM	-eu-	SLF:BE N -iö- (-üë-)	DFT	-eö-
5	CPL	-ëi-	RCT	-ëu-	UNK -eë-	EQU	-oë-
6	DUP	-u-	FRE	-ui-	SLF:DET -ua- (-iä-)	SUR	-oa-
7	DEM	-ü-	FRG	-iu-	3:DET -ue- (-ië-)	SPL	-öa-
8	CNG	-o-	VAC	-oi-	2:DET -uo- (-öä-)	SPQ	-oe-
9	PTI	-ö-	FLC	-ou-	1:DET -uö- (-öë-)	MAX	-öe-

- Aspect: アスペクト。
 - Retrospective (RTR): ExtensionがDELの場合、既に完了している動作。PRXの場合、過去に起こり現在まで継続している可能性のある動作。PerspectiveがNかAの場合、「常に～する」という意味を付加。
 - Prospective (PRS): ExtensionがDELの場合、単純未来。PRXの場合、未来に起こり、現在既に起こっている可能性のある動作。PerspectiveがNかAの場合、「常に～するだろう」という意味を付加。
 - Habitual (HAB): 習慣的、継続的動作。RTRと組み合わせると過去の習慣、PRSと組み合わせると未来の習慣を表す。
 - Progressive (PRG): 現在進行。

- Imminent (IMM): 差し迫っている動作。
- Precessive (PCS): すぐに起こる動作。
- Regulative (REG): 過去から未来まで続く動作への関与。
- Summative (SMM): 既に完了している動作。否定の場合、まだ行われていない動作。
- Anticipatory (ATC): まだ行われていない動作。
- Resumptive (RSM): 再び行われる動作。「～し直す」「再び～する」
- Cessative (CSS): 動作の停止。「～するのをやめる」
- Pausal (PAU): 一時停止。再開を含意。
- Regressive (RGR): 長い中断の間に状態や状況の変化を挟んでから再開。「病気から回復した後、ピエロは毒の研究に戻った」
- Preclusive (PCL): 動作が始めから終わりまで一度に起こること。「鳥が芋虫を丸呑みする」
- Continuative (CNT): 継続する動作。「～し続ける」「まだ～している」。否定の場合「もう～していない」
- Incessative (ICS): 止まることなく続く動作。「夜通し踊り続ける」
- Experimental (EXP): 経験上の動作。「～したことがある」
- Interruptive (IRP): 動作を妨げること。「～するのをやめさせる」
- Preemptive (PMP): 単一、または初めての動作。「やっと」「ついに」とも訳される。
- Climactic (CLM): 最後の動作。「最後に」「これっきりの」
- Dilatory (DLT): 時間がかかる動作。「あなたを見つけるのに時間がかかった」「車の修理をできる限り遅らせろ」
- Temporary (TMP): 現在を含む時間の幅。今のところ、当分の間。
- Expenditive (XPD): 他の出来事の発生を妨げる動作。「母は人生を不安に過ごす」「彼は考え事に時間を無駄にしている」
- Limitative (LIM): 間に合う動作。「打ち上げに丁度間に合って到着した」
- Expeditive (EPD): 急ぎの動作。「急いで食べる」
- Protractive (PTC): 長期間行われる動作。「しばらくの間雨が降る」。PhaseがPunctualの場合、大きな遅れを伴った動作を表す。
- Preparatory (PRP): 前もって行われる動作。「ピエロたちは攻撃を事前に計画した」
- Disclusive (DCL): 明らかになった動作。「いところがイスクイルを全く勉強していないことが分かった」
- Conclusive (CCL): 動作の直接的な結果。「結局車を壊してしまった」「気を失うまで酒を飲んだ」
- Culminative (CUL): Conclusiveよりも長期的な動作の結果。「しまいには、街を出ないといけなくなった」
- Intermediate (IMD): 期間内のどこか一点で起こる動作。「途中のどこかで、道に迷ってしまった」
- Tardative (TRD): 動作を通じたエネルギーの減少。「生きる情熱が衰えていく」
- Transitional (TNS): 動作の開始、初期段階。
- Intercommutative (ITC): ある動作をやり返すこと。「投げ返す」「見つめ返す」

- Motive (MTV): 動作の参与者が不在となること。「お父さんは狩りに出かけた」
- Sequential (SQN): 連続的な動作の進行。「羊が次々と死んでいく」「リストを一つずつチェックする」

RTR	-a-	RSM	-ai-	PMP	-ia- (-uä-)	DCL	-ao-
PRS	-ä-	CSS	-au-	CLM	-ie (-uë-)	CCL	-aö-
HAB	-e-	PAU	-ei-	DLT	-io- (-üä-)	CUL	-eo-
PRG	-i-	RGR	-eu-	TMP	-iö- (-üë-)	IMD	-eö-
IMM	-ëi-	PCL	-ëu-	XPD	-eë-	TRD	-oë-
PCS	-u-	CNT	-ui-	LIM	-ua- (-iä-)	TNS	-oa-
REG	-ü-	ICS	-iu-	EPD	-ue- (-ië-)	ITC	-öa-
SMM	-o-	EXP	-oi-	PTC	-uo- (-öä-)	MTV	-oe-
ATP	-ö-	IRP	-ou-	PPR	-uö- (-öë-)	SQN	-öe-

- Cn: 強勢が最終音節にある(つまりformativeが主動詞である)場合はMood、そうでない場合はCase Scopeを表す。VnがValence/Phase/Effect/Levelを表している場合は前者(-h-とか-hl-とか)、Aspectを表している場合は後者(-w/y-とか-hw-とか)の形になる。
 - Mood
 - Factual (FAC): -h-, -w/y-: 無標。スロットⅧが出現していない場合はこれ。前提が存在しないか前提も確実で、話者の叙述も確実。「彼の子どもは病気だ(彼には子どもたちがいることが分かっていて、その子たちは病気だということも分かっている)」
 - Subjunctive (SUB): -hl-, -hw-: 前提は確実だが、話者の叙述は不確実。「彼の子どもは病気かもしれない(彼に子どもがいることが分かっていて、その子は病気かもしれない)」
 - Assumptive (ASM): -hr-, -hrw-: 前提の確実性は不明。話者の叙述の確実性が、前提の確実性に左右される。「彼の子どもは病気だろう(彼に子どもがいるかは分からないが、いるならばその子は病気だろう)」

- Speculative (SPC): **-hm-, -hmw-**: 前提の確実性も話者の叙述の確実性も不明。「彼の子どもは病気かもしれない(彼に子どもがいるかは分からないが、いるならばその子は病気かもしれない)」
- Counterfactive (COU): **-hn-, -hnw-**: 話者の叙述は真だが、前提は偽または非現実。「もし彼に子どもがいるとすればその子は病気だろうが、彼に子どもはいない」
- Hypothetical (HYP): **-hñ-, -hñw-**: 前提は偽または非現実。前提が真だったとしても、話者の叙述は不確実。「彼に子どもがいるとすれば、その子は病気だったかもしれない(が、彼に子どもはいないので分からない)」
- Case Scope: 格がどの Formative を修飾するか示す。
 - Natural (CCN): **-h-, -w/y-**: CCAが表示されたFormativeを修飾。それがない場合、主動詞を修飾。
 - Antecedent (CCA): **-hl-, -hw-**: 節内の無標のFormative、またはCCNが表示されたFormativeの主要部となる。
 - Subaltern (CCS): **-hr-, -hrw-**: CCQが表示されたFormativeを修飾。
 - Qualifier (CCQ): **-hm-, -hmw-**: CCSが表示されたFormativeの修飾を受ける。
 - Precedent (CCP): **-hn-, -hnw-**: 直前のFormativeのみを修飾。
 - Successive (CCV): **-hñ-, -hñw-**: 直後のFormativeのみを修飾。
- Cnの移動: スロットVIが無標かつスロットVIIIのValenceがMNOで、かつMood/case scopeがFAC/CCN以外の場合、スロットVIとVnが省略されCnがスロットVIの位置に現れることがある。

スロットIX: Vc or Vk

- Formativeの強勢が最終音節ならばVk、そうでなければVc
- Vc: Case: 格
 - Transrelative: 主・対・与に相当
 - Thematic (THM): **-a:** 状態が変化しない。Content
 - Instrumental (INS): **-ä:** 道具。Instrument
 - Absolutive (ABS): **-e:** 状態が変化する。Patient
 - Affective (AFF): **-i:** 非意志的に生理現象や知覚を行う。Experienser
 - Stimulative (STM): **-ëi:** 知覚の刺激。Stimulus
 - Effectuative (EFF): **-ö:** 知覚などを誘発する。StimulusよりAgentっぽい。因果関係の要因。Enabler
 - Ergative (ERG): **-o:** Patientに影響を与えたり変化を引き起こしたりする。Agent、Force
 - Dative (DAT): **-ü:** 受容者。Recipient
 - Inductive (IND): **-u:** AgentかつPatient。再帰的
 - Appositive: 属格に相当
 - Possessive (POS): **-ai:** 譲渡可能。所有権に関わらない、物理的な接触とか。「彼の(所有権にかかわらず今まさに着ている)服」
 - Propriative (PRP): **-au:** 譲渡可能で、法律的・社会的な所有。「彼の(着ているかどうかに関わらず所有している)服」

- Genitive (GEN): **-ei**: 譲渡不可。身体の一部など。「私の手」「建物のドア」「子供の父親」
- Attributive (ATT): **-eu**: Affectiveに相当。「彼の痛み」「母の罪」「子どもの咳」
- Productive (PDC): **-ëu**: 作者。「少女の詩」「ピエロの計画」「私の(作った)像」
- Interpretative (ITP): **-ou**: 主観的な解釈を行う人。「我々の世界」「子供により経験される人生」
- Originative (OGN): **-oi**: 起源。「彼の話(彼から聞いた話)」「私たちからの贈り物」「川由来の水」「木の果物」
- Interdependent (IDP): **-iu**: 相互に依存する関係。「生徒の教師」「軍の将軍」「血管の血」「トラックの運転手」「国家のリーダー」「彼のチーム」。ただし「全体と部分」の関係性には用いない
- Partitive (PAR): **-ui**: 容器と内容物の関係性。「コーヒーの入ったコップ」「本の入った箱」「難民を乗せた列車」。また、数詞を修飾することで数を表す
- Associative
 - Applicative (APL): **-ia, (y)-uä**: 一時的な用途。「コーヒーを入れるコップ」「道具を入れる箱」「飛び道具として用いられる本」
 - Purposive (PUR): **-ie, (y)-uë**: 本来の用途。「コーヒーカップ」「道具箱」「ゴミ箱」
 - Transmissive (TRA): **-io, (y)-üä**: 受容者、受益者、被害者。「子ども用のおもちゃ」「彼のためにパーティーを開いた」「教師のラウンジ」「囚人の独房」
 - Deferential (DFR): **-iö, (y)-üë**: 敬意や利益。「彼女のために黙っていた」「その家族への敬意から式典を続行した」
 - Contrastive (CRS): **-eë**: 対照。「雨ではなく雪が降っていた」「ニンジンよりもエンドウ豆の方が好き」
 - Transpositive (TSP): **-uö, (w)-öë**: 代わり、代用。「上司は私の代わりにスピーチを行った」「弟の代わりに屋根裏部屋に上がった」
 - Commutative (CMM): **-uo, (w)-öä**: 交換物。「ドレスにお金をかける」「スリルのために殺しを行う」
 - Comparative (CMP): **-ue, (w)-ië**: 比較。動詞として使われると「一方で」。Contrastiveとは異なり、一対一ではなく多数の候補からの選択を表す。
 - Considerative (CSD): **-ua, (w)-iä**: 情報源。「私の意見では、彼は臆病者だ」「先生によると、人間はサルの子孫だ」
- Adverbial
 - Functive (FUN): **-ao**: 動作の状態、やり方。「優雅に踊る」「味わって食べる」
 - Transformative (TFM): **-aö**: 状態変化の結果。「燃えて灰になる」「平穏な状態に達する」「子どもたちを奴隷にする」「飲みすぎで亡くなる」
 - Classificative (CLA): **-eo**: 分類や数え方の基準。「3つずつ置く」「テーブルを列にする」「縦に寝転ぶ」「5ずつ数える」「色別に分ける」。次々に起こる動作の様子を表すことも。「一袋、また一袋と生産する」「患者ごとに注射する」「一発、また一発と爆弾が落ちる」。時間の反復性を強調するために使われることも。「月が経つにつれ、出発が近づいてきた」「年々ますます多くのピエロに会う」「日々働く」
 - Resultative (RSL): **-eö**: 結果。「十代から喫煙したことにより早死にする」「何年も勉強したことで専門家になる」「試合中のエラーにより敗北する」

- Consumptive (CSM): -oë: 動作の過程で消費されるもの。「トマトを使って料理する」「彼女にりんごを食べさせる」「蠟燭(の明かり)で読書する」
- Concessive (CON): -öe: 予期された状況が起こらないこと。「頭の悪さにもかかわらず合格する」「法律にもかかわらず立場を貫く」「無学であっても歓迎される」「外国人でも会議に出席させる」
- Aversive (AVR): -oe: 恐怖や回避。「私の怒りを恐れて彼女は完食した」「太陽を避けて夜に旅行する」
- Conversive (CVS): -öa: 例外。仮定上の状況にも現実の状況にも使える。「ピエロ以外全員を愛する」「平和がなければ世界は破滅する」「雨でなければ楽しく過ごせたのに」「ほうれん草以外何でも食べる」
- Situative (SIT): -oa: 背景の文脈。直接的な要因ではない。「戦争のため連邦に参加できない」「ピエロの存在を考慮すると、子どもたちの腐敗を受け入れなければならない」「私の計画を使えば敵を倒せる」
- Relational: このグループ以降の格は母音＋声門閉鎖の接辞で表されるが、これは音韻規則に反するので実際にはそれぞれ括弧内の発音になる
 - Pertinential (PRN): -a' (-a'a): ~について。「愛についての歌」「本については、これを燃やせ」「ピエロについて話す」「女性に対する態度」
 - Descriptive (DSP): -ä (-ä'ä): 形容詞的。「邪悪な顔」「病気の子ども」「愚かな人」「平和な場所」
 - Correlative (COR): -e' (-e'e): 関連性。「キャリア目標」「その日のスープ」「その道の行き先」「時間と距離の関係性」「性と芸術の関係性」
 - Compositive (COM): -i' (-i'i): 原料、構成物、内容物。「彫像は大理石で作られていた」「金のコイン」「虚偽の網」「木のはしご」「カードの家」
 - Comitative (COM): -ëi' (-ë'i): 随伴物、随伴者。「パンを持って歩く」「犬と共に歩く」
 - Utilitative (UTL): -ö' (-ö'ö): 進行中の動作とは無関係の道具。「銃を持った男」「傘を差している歩行者」「バックパックを背負った少女」
 - Predicative (PRD): -o' (-o'o): 基礎、基盤。「出版社に依存する本」「慈善に頼る男」「理性に基づく法律」「腐敗に支えられた成功」
 - Relative (RLT): -u' (-u'u): 先行する formative を修飾する関係節。「イカサマをするピエロ」
- Affinitive
 - Activative (ACT): -ai' (-a'i): 義務、必要性、願望、期待、可能などの法制に関する状態にある Experiencer。「氏は平和を望んでいる」「私は正義に期待している」「ピエロは宇宙船の乗客を必要としている」
 - Assimilative (ASI): -au' (-a'u): 比喩。「鳥のように歌う」「お姫様のように扱う」「子どものように話す」
 - Essive (ESS): -ei' (-e'i): 名前や役割。~として。「彼をピエロと呼ぶ」「あなたを唯一の希望だと考えている」「子どもらしく話す(実際に子どもなので)」
 - Terminative (TRM): -eu' (-e'u): 動作の目標。「新しい惑星を探す」「彼の故郷を見たいという願望」「チャンピオン(を育成するための)のアカデミー」
 - Selective (SEL): -ëu' (-ë'u): 期間内の反復。「3日ごとに彼の元を訪れる」「毎年旅行する」「昼間の間は職人だ」「本3冊ごとに」。反復性を強調したい場合は Classificative も使える。

- Comformative (CFM): **ou'** (**-o'u**): ~に従って、準じて。「裁判所の指示に従い街を出る」「法律に従って逮捕する」「期待に沿って行動する」
- Dependent (DEP): **-oi'** (**-o'i**): 前件と後件の関係性。
 - 1: 前件が真なら後件も真。前件が偽なら後件も偽。「火災の場合のみ窓ガラスを割る」
 - 2: 前件が真なら後件も真。前件が真偽不明なら後件も偽。「火災が確実な場合のみ窓ガラスを割る」
 - 3: 前件が真なら後件も真。前件が真偽不明なら後件も不明。「火災の場合は窓ガラスを割るが、火災が確実でない場合に割るかは分からない」
 - 4: 前件が真なら後件も真。前件が偽なら後件は不明。「火災の場合は窓ガラスを割るが、火災でない場合にも割るかもしれない」
 - 5: 前件の真理値にかかわらず後件は真。「火災であろうとなかろうと窓ガラスを割る」
 - 6: 前件が真なら後件も真。前件が偽なら後件も偽。前件が真偽不明なら後件も真偽不明。「火災の場合は窓ガラスを割り、火災でない場合は割らないが、火災が確実でない場合に割るかは分からない」
 - 7: 前件が真または真偽不明なら後件も真。前件が偽なら後件も偽。「火災の場合または火災が確実でない場合にガラスを割るが、火災でない場合は割らない」
 - 8: 前件が予測不能なため後件も予測不能。「彼女は彼女自身の態度次第で現れる可能性がある」
 - 9: 前件が予測不能なため後件は準備のみを表す。「雨に備えて傘を持つ」
- Vocative (VOC): **-ui'** (**-u'i**): 呼格。「Atozさん！」「おい、ピエロ！」
- Spatio-Temporal Group I
 - Locative (LOC): **-ia'** (**-i'a**): 場所。「子どもたちはテントにいる」「彼はギロチンのそばにいる」
 - Attendant (ATD): **-ie'** (**-i'e**): 状況に関連しているもの。「ジョンに向かって『火事だ！』と叫ぶ(その結果、ジョンが何かしらの行動を起こす)」「彼女は子どもとゲームをする(子どもはゲームを見ているか、彼女の近くにいる)」
 - Allative (ALL): **-io'** (**-i'o**): 移動の方向。「窓の方へ行く」「テントへ向かう」
 - Ablative (ABL): **-iö'** (**-i'ö**): 起点。「車から出てくる」「窓から離れる」
 - Orientative (ORI): **-eë'** (**-e'ë**): 移動などにおいて、物体の「顔」や「前面」「頭」などの機能を果たすもの。「身体を前に向ける」「後ろ向きに歩く」「車が横に曲がる」
 - Interrelave (IRL): **-uö'** (**-u'ö**): 位置的、時間的な方向性。「私の方へ背中を向ける」「それは家の西にある」「私の到着時間を基準に、パレードの開始時間を教えてください」
 - Intrative (INV): **-uo'** (**-u'o**): 幅のある空間、時間の端の部分。つまり、開始点または終止点。「戦争の時から、彼はずっと悲しんでいる」「本日正午現在、もう受付はしていない」「明日の正午まで利用可能」「芝生がフェンスまで広がっている」「花壇の間を歩く」「電車はロサンゼルスまで行く」

- Navigative (NAV): **-ua'** (**-u'a**): 経路の方向として機能する軸。「星(の軌跡に)沿って航行する」「自分自身の道を辿る」「街道の方へ飛んでいく」「ボールが公園を横切る」
- Spatio-Temporal Group II
 - Concurive (CNR): **-ao'** (**-a'o**): 点的、または幅のある時間。「戦時中に亡くなる」「正午に到着する」「土曜日に現れる」
 - Assessive (ASS): **-aö'** (**-a'ö**): 割合。「1分ごとに請求する」「時速90kmで進む」「1冊あたり25ドル稼ぐ」「1人のピエロに2人の子どもを割り当てる」
 - Periodic (PER): **-eo'** (**-e'o**): 行為や状態の発生する時間の範囲。「小説を6ヶ月かけて書く」「ピエロが数日で子どもたちを腐敗させる」「多くの時間を病気で過ごす」「最近の何回かのコンサートで声が悪化している」
 - Prolapsive (PRO): **-eö'** (**-e'ö**): 動作や状態の継続時間。「昼食の間祈り続ける」「一晩中雨が降る」「熱が下がるのに3日かかる」「1時間歌う」
 - Precursive (PCV): **-oë'** (**-o'ë**): 動作が起こる前の時間。「戦前の街」「食事会の前のプレゼンテーション」
 - Postcursive (PCR): **-öe'** (**-ö'e**): 動作が起こった後の時間。「戦後の街」「食事会の後のプレゼンテーション」「踊ってから長い時間が経った」
 - Elapsive (ELP): **-oe'** (**-o'e**): 動作が起こる時間と現在との間の時間。過去も未来も表す。「4年前は学生だった」「3世代前、女性は投票できなかった」「3世代先、ピエロが世界を支配する」「3日後には家にいる」「2ヶ月後には裕福になっている」。接辞により意味を拡張できる。
 - 1: 遠い昔、昔々
 - 2: 過去、以前、かつて
 - 3: 最近
 - 4: さっき
 - 5: 現在
 - 6: 寸前
 - 7: もうすぐ
 - 8: 未来、いつか
 - 9: 遠い未来
 - Prolimitive (PLM): **-oa'** (**-o'a**): ~が終わる前に。「夕食が終わる前に謝罪してほしい」「ピエロが発演するなら、子どもたちが到着する前がいい」
- Vk: Illocution: 発話の目的
 - Assertive (ASR): 主張、命題。Validationに基づき9つに分かれる。
 - Validation: 証拠性
 - Observational (OBS): **(-á)**: 現在の知覚的な知識・経験
 - Recollective (REC): **-â**: 過去の知覚的な知識・経験
 - Purportive (POP): **-é**: 信頼できる第三者から得た知識
 - Peportive (RPR): **-í**: 第三者から得た知識
 - Unspecified (USP): **-êi**: 証拠性を意図的に特定しない
 - Imaginary (IMA): **-ô**: 非現実、想像。
 - Conventional (CVN): **-ó**: 文化的・慣習的に共有されている知識
 - Intuition (ITU): **-û**: 直感、主観的感覚、過去の経験など
 - Inferential (INF): **-ú**: 証拠に基づいた推論

- Directive (DIR): **-ái**: 命令、または話し手の約束・宣誓・義務。
- Declarative (DEC): **-áu**: 相手に変化を与える宣言、告知、布告。
- Interrogative (IRG): **-éi**: 疑問詞疑問文
- Verificative (VER): **-éu**: 諾否疑問文
- Admonitive (ADM): **-óu**: 警告
- Potentative (POT): **-óí**: 願望
- Hortative (HOR): **-íu**: 反実仮想
- Conjectual (CNJ): **-úi**: 接続法

スロット X : [stress]: 強勢位置

- 最終音節: unframedな(Case-Frame[=従属節に相当する部分])に含まれていない動詞。スロットⅨはVk。単音節語は最終音節にアクセントがあると見なされる。
- 最後から二番目の音節: unframedな名詞。スロットⅨはVc。
- 最後から三番目の音節: framedな名詞。スロットⅨはVc。音節数が足りない場合は、スロットⅡまたはスロットⅧ・Ⅸを無標の接辞で埋める。
- Case-Frameが文頭または文中に現れる場合、Case-Frame内の最後の単語には -n が付加されることがある。

Referential

- 代名詞的なやつ

スロット I : C1

- 参照する人称を表す
- formativeのスロットⅧと同様に、Effectを区別する。
- スロット I の子音は音韻規則の許す限り組み合わせることができる。smlo「あなたと彼と私」とか。音韻規則に反する場合は-ë-が語頭に付加されたり語中に挿入されたりする。zēmse「それと彼と私」とか。
- Monadic以外のPerspectiveを表すには、以下の接辞をC1の直前または直後に音韻規則に反しない形で付加する。
 - Agglomerative: **-l-, -tl-**
 - Nomic: **-ç-, -x-**
 - Abstract: **-w-, -y-**
- 一人称単数以外は、二つ組み合わせることで異なる二つの指示対象を表すことができる。その場合、語構造はスロット I (C1)+スロットⅡ(C1の格を表すVc1)+スロットⅢ(w/y+C2の格を表すVc2)+スロットⅣ(C1とは異なる指示対象を表すC2)になる。pūwüp「彼に、(また別の)彼に」zāwiesz「それを用いて、(また別の)それによって」。
- 上記の語構造は、一つの指示対象に対し複数の格を用いる場合にも使われる。その場合、スロットⅣは出現しない。

- ReferentialにVxCs接辞を付加する際、語構造はスロットⅠ(C1)+スロットⅡ(C1の格を表すVc1)+スロットⅢ(Specificationを表す子音)+スロットⅣ(VxCs接辞)+スロットⅤ(2つ目の格または挿入母音-a)になる。スロットⅢは以下の通り。
 - BSC: -x-
 - CTE: -xt-
 - CSV: -xp-
 - OBJ: -xx-

		Effect			
		Neutral	Beneficial	Detrimental	
1m	monadic speaker	l	r	ř	一人称単数
2m	monadic addressee	s	š	ž	二人称単数
2p	polyadic addressee	n	t	d	二人称複数
ma	monadic animate 3rd party	m	p	b	三人称単数有生
pa	polyadic animate 3rd party	ň	k	g	三人称複数有生
mi	monadic inanimate 3rd party	z	ṭ	ḍ	三人称単数有生
pi	polyadic inanimate 3rd party	ṛ	f	v	三人称複数無生
Mx	mixed animate/inanimate 3rd party	c	č	j	三人称単数有生・無生混合
Rdp	Reduplicative	th	ph	kh	前で名付けられたものを参照
Obv	Obviate	ll / lç	rr / rç	řř / řç	前に参照されたものとは別のもの
PVS	Provisional	mm / mç	nn / nç	ňň / ñç	何か、誰か

スロットⅡ: Vc1

- formativeのスロットⅡの格接辞と同じ

Adjunct

Affixual Adjuncts

- スロット V や VII の VxCs 接辞の代わりに formative の前に置かれることがある (formative が文末にある場合は後に置かれる)。
- Single Affixual Adjuncts: 接辞一つに相当。VxCs の末尾に Vs を加えることで作られる。
 - **-(a)**: 接辞の意味は語根の意味にのみ加えられる (Ca には加えられない)。スロット V の末尾の接辞に相当。
 - **-u**: スロット V の先頭の接辞に相当し、全てのスロット V の接辞の影響を受ける。
 - **-e**: スロット VII の末尾の接辞に相当。
 - **-i**: スロット VII の先頭の接辞に相当。
 - **-o**: formative 全体を修飾。
 - **-ö**: modular 接辞を含む隣接した接辞や formative 全体を修飾
 - 強勢は無標では最後から二番目の音節で、最終音節に強勢がある場合は concatenated stem のみを修飾する。
- Multiple Affixual Adjuncts: 2 つ以上の接辞に相当。語構造は **(ë)CsVx+Cz+VxCs(複数)+Vz**。
 - Cz: 1 番目の接辞が修飾する範囲
 - **-h-**: 接辞の意味は語根の意味にのみ加えられる (Ca には加えられない)。スロット V の末尾の接辞に相当。
 - **-'h-**: スロット V の先頭の接辞に相当し、全てのスロット V の接辞の影響を受ける。
 - **-'hl-**: スロット VII の末尾の接辞に相当。
 - **-'hr-**: スロット VII の先頭の接辞に相当。
 - **-hw-**: formative 全体を修飾。
 - **-'hw-**: modular 接辞を含む隣接した接辞や formative 全体を修飾
 - Vz: 2 番目以降の接辞が修飾する範囲
 - **-(a)**: 接辞の意味は語根の意味にのみ加えられる (Ca には加えられない)。スロット V の末尾の接辞に相当。
 - **-u**: スロット V の先頭の接辞に相当し、全てのスロット V の接辞の影響を受ける。
 - **-e**: スロット VII の末尾の接辞に相当。
 - **-i**: スロット VII の先頭の接辞に相当。
 - **-o**: formative 全体を修飾。
 - **-ö**: modular 接辞を含む隣接した接辞や formative 全体を修飾
 - **-(ai)**: Cz と同じ修飾範囲
 - 強勢は無標では最後から二番目の音節で、最終音節に強勢がある場合は concatenated stem のみを修飾する。

Modular Adjuncts

- formative のスロット VIII と同じ文法範疇を表示する

- concatenateされたformativeに対して用いられるときは、concatenated stemとparent stemの両方を修飾できる
- 4つのスロットから成る。スロットⅠ・Ⅳは必須で、その他は任意。
 - スロットⅠ
 - ' -: 無標？
 - w -: parent stemのみを修飾
 - y -: concatenated stemのみを修飾
 - スロットⅡ : VnCn: formativeのスロットⅧと同じ。無標はMNO-FAC/CCN。
 - スロットⅢ : VnCm: スロットⅡと同じ。
 - VnがAspectを表示しているならCmは-n-、そうでなければ-ñ-。
 - スロットⅣ : Vn or Vh
 - スロットⅠとⅣのみが出現している場合、Aspectを表示。
 - スロットⅡ・Ⅲが現れていて強勢が後ろから二番目の音節の場合、Valence・Phase・Level・Effectを表示。
 - スロットⅡ・Ⅲが現れていて強勢が最終音節の場合、以下のVhを表示。よくわからん
 - -a:
 - -e:
 - -i / u:
 - -o:

Register Adjuncts

- 話法を表す。
 - Narrative (NRR): 一般的な叙述。ナレーションにも使われる。無標。
 - Discursive (DSS): **ha / hai**: 直接話法。「妻は夫に『帽子忘れてるわよ』と言った」
 - Parenthetical (PNT): **he / hei**: 挿入句。注釈。「ユーラシアのウマ科動物(アメリカについては気にする必要はない)は四足動物である」
 - Specificative (SPF): **hi / hiu**: 直前に参照された固有名詞を示す。固有名詞でない場合はPNTを用いる。
 - Exemplificative (EXM): **ho / hoi**: 先行するformativeや句の例であることを表す。「例えば～」
 - Cogitant (COG): **hu / hui**: 実際の発話には現れない思考。モノローグ。
 - Carrier-End (END): **hü**: carrier stemやcarrier adjunctの終わりを示す。固有名詞や外来語に対してはCAR end-ad adjunctを用いる。

Suppletive Adjuncts

- 語構造は Cp+Vc. Vc は formative のスロットⅩの case と同じ。suppletive adjunct に修飾される語句の最後は、hü を置くか、低いトーンで発音することで表される。
 - Carrier Adjunct (CAR): **hl-**: carrier stem の短縮形で、case のみを表す。後続の外来語や固有名詞を聞き手が既に知っている場合に使用。
 - Quotative Adjunct (QUO): **hm-**: DSS register の従属節の格を表示する。「彼は私に『この家から出て行け！』と言った」のような文を訳す際に使用。

- Naming Adjunct (NAM): **hn-**: 後続の単語が、指示対象ではなくその名前自体を指示することを表す。
- Phrasal Adjunct (PHR): **hñ-**: 後続の語句を語彙化する。英語におけるハイフンで繋がれた句と同じような働き。

Bias Adjuncts

- 間投詞。文の他の要素とは独立している。子音のみから成り、通常の音韻規則を逸脱している。
 - Accidental (ACC): **lf**: 「運が良ければ〜だ」「〜という運命だ」
 - Archetypal (ACH): **mçt**: 「なんて〜だ！」
 - Admissive (ADS): **lj**: 「うんうん」(同意を含意せず、発言の承認のみを表す)
 - Annunciative (ANN): **drr**: 「何だと思う？」
 - Anticipative (ANP): **lst**: 「楽しみだなあ！」
 - Approbative (APB): **řs**: 「いいよ」「いいね」「OK」
 - Apprehensive (APH): **vvz**: 「心配だなあ……」
 - Arbitrary (ARB): **xtl**: 「ああ、なんでもいいよ」「ああ、なんだ」
 - Attentive (ATE): **ňj**: 「まあ、なんというか……」「まあ、あれを見てくださいよ……」「お察してください」「誰が想像しただろうか……」
 - Comedic (CMD): **pjl**: 「笑」「w」
 - Contensive (CNV): **rrj**: 「だから言っただろ！」「それ見たことか！」
 - Coincidental (COI): **ššč**: 「偶然だね！」
 - Corruptive (CRP): **gžž**: 「なんという腐敗だ！」
 - Corrective (CRR): **ňt**: 「つまり〜」「私が言いたいのは〜」
 - Contemptive (CTP): **kšš**: 「馬鹿言え！」「何を馬鹿なことを！」
 - Contemplative (CTV): **gvv**: 「どうなんだろう……」「変だな……」「分からない……」「うーん……」
 - Disconcertive (DCC): **gzj**: 「どうなんだろう」「落ち着かないなあ」「ここでは本領を発揮できない気がする」
 - Dejective (DEJ): **žžg**: (落胆・幻滅のため息)
 - Desperative (DES): **mřř**: 「どう言ってもいいか分からないけど〜」「残念ながら〜」「申し上げにくいのですが〜」
 - Diffident (DED): **cč**: 「ごめん。でも〜」「なんでもないよ。ただ〜」
 - Dismissive (DIS): **kff**: 「そういうこと？」「大したもんだ！」「だから何だ？」
 - Delectative (DLC): **žmm**: 「わーい！」
 - Dolorous (DOL): **řřx**: 「痛！」
 - Disapprobative (DPB): **ffx**: 「〜が気に入らない」「〜が気に障る」「気に入らない！」「大嫌い！」
 - Derisive (DRS): **pfc**: 「なんと愚かな！」
 - Dubitative (DUB): **mmf**: 「うーん、それはないな」「怪しいな」「信用できない」
 - Euphoric (EUH): **gzz**: 「(ため息) なんという至福！」
 - Euphemistic (EUP): **vvt**: 「〜とだけ言っておこう」「まあ、こう言っておこう」
 - Exasperative (EXA): **kçç**: 「畜生！」「いいか、分かったか？」「いいか、私が言いたいのは〜」

- Exigent (EXG): rrs:「今しかない！」
- Fortuitous (FOR): lzp:「それでいいんだ」「終わりよければすべてよし」
- Fascinative (FSC): žžj:「かっこいい！」「わあ！」「すごい！」
- Gratificative (GRT): mmh:「ああ幸せ……」「ああ、こんなの他に知らない……」(肉体的快樂のみ)
- Indignative (IDG): pšš:「よくも！」
- Infatuative (IFT) : vvr:「～に賛美あれ！」「ああ、神に感謝！」「～ほど神聖なものはない！」
- Implicative (IPL): vl:「もちろん」「やはり」「言うまでもない」
-